

つながりを大切にし、  
かかわりを深める児童生徒の育成



# ユネスコスクール便り

令和4年6月9日

№117

大牟田市エネコスクール  
担当者通信

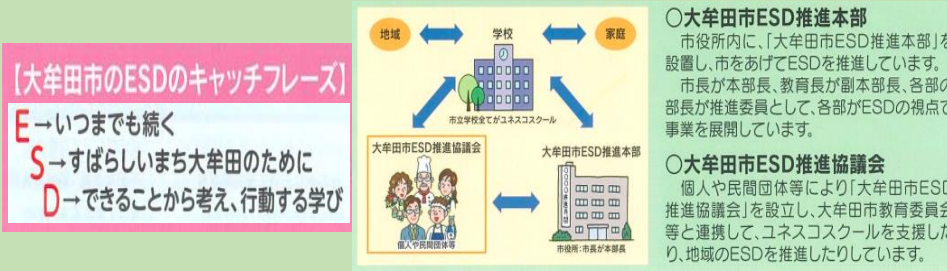
## 教えて！ 大牟田のESD



本年度、大牟田市に採用された先生方と一緒に、ESDについて確認していきましょう。

Q：大牟田市のESDの特色や、SDGsとの関わりを教えてください

大牟田市の全市立学校は、平成24年1月に一斉にユネスコスクールに加盟し、学校や地域の実態に合わせて、持続可能な開発のための教育(ESD)を行っています。大牟田市では、100年後の未来を見据え、持続可能なまちづくりの担い手としての子ども達を育むために、学校と家庭と地域などが連携協力し、市をあげてESDを進めています。



2015年、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、国際連合サミットで17の持続可能な開発目標及び169のターゲットが採択されました。これが「SDGs」です。持続可能な社会の創り手を育成するESDは、SDGsを達成するために不可欠である質の高い教育の実現に貢献するものとされています。大牟田市では、このSDGsから10の目標を選び、大牟田市版SDGsを設定し、重点的に各学校のESDを推進しています。

### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



### 大牟田版 SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



## 特色ある実践事例の紹介

### 11 自然が育まれるまちづくり 櫟野石の歴史をさぐる 玉川小学校

玉川校区には、地域の方が大切に守り、現在に繋いできた宝がたくさんあります。その一つが「櫟野石」です。玉川校区では、江戸時代から終戦後まで、この櫟野石を使って神社の鳥居や狛犬、橋など、様々なものづくりが行われてきました。この「櫟野石」について、昨年度は6年生が「櫟野石歴史保存会」の方々と共に、櫟野石の歴史や、櫟野石の普及を通して村の発展に力を尽くした人の存在を知り、この歴史ある宝をもっと多くの人に伝え、未来へ繋いでいこうと、手作りの看板づくりに取り組みました。

このように、玉川小学校では、地域の宝を題材に、子ども達にふるさとを誇りに思い、自分にできることに取り組もうという気持ちを育てています。



櫟野石保存会の方と立てた看板

### 3 すべての人に健康と福祉を 大牟田のまちづくりを担い

### 社会の創り手となる「白光タイム」 白光中学校

白光中学校では、白光中版SDGsとして「3：すべての人に健康と福祉を」「4：質の高い教育をみんなに」「11：住み続けられるまちづくりを」「17：パートナーシップで目標を達成しよう」の4つの目標を重点として取り組んでいます。

1年生は、5月に絵本教室で認知症について学習し、「認知症の方々が何に困られているのかをみんなに知ってほしい。」と寸劇づくりを通して発信しました。生徒は「認知症のことを多くの人たちが知って上手にサポートしていけば、誰もが快適に暮らしていけると思いました。この劇でまわりの人に広げることができたらうれしいです。」と感想を書いていました。



認知症の方との関わり方を寸劇で発表しました